

令和元年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 校訓・教育目標・育てたい生徒像

校訓	『誠実・克己・忠恕』
教育目標	校訓の調和的実現をめざし、こころ豊かな人間性の涵養に努める。 ア 生涯にわたって意欲的に学び続ける自律的な生活態度と主体的な学習態度を育成する。 イ 時代や社会の変化に的確に対応する力を培い、広い視野に立って行動できる実践力を育む。
育てたい生徒像	ア 知・徳・体の調和のとれ、自立して生涯にわたり自らの夢や志の実現に向けて自走できる生徒。 イ 高いコミュニケーション能力を持ち「三方よしの人づくり」を尊重し、主体性と創造性、責任感とチャレンジ精神をもって行動できる生徒。 ウ 異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献しようとする態度を持つ生徒。

2 重点目標

ア 日々の授業の改善と充実	「教師が教え生徒が教わる授業」から「生徒が自ら学ぶ授業」への移行を図る。
イ 生徒の主体的な活動意欲の向上	あらゆる機会を捉え、生徒を励まし、生徒の自己有用感・自尊心を高める指導を行う。
ウ 教職員の資質向上	生徒一人ひとりが充実した人生を送る基盤を形成することを支援できるよう教職員も自らの資質向上に努める。

3 自己評価

項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取組	達成状況		取組状況・改善方針
				取組	総合	
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	学力向上の推進	1.アクティブ・ラーニングの実施	B(3.4)	A	○習熟度別少人数授業や補習は生徒のニーズに合致した実施ができていない。 ○STの活用は学年ごとに課題を明確にし、3年計画で取り組みたい。 ○アクティブ・ラーニングは発展途上で、継続的な取組が重要。 ○英語4技能試験は学校全体で取り組むことで成果が確認できている。 ○SGH最終年を迎え、海外研修と総合型入試については発展的継続を検討する。 ○1年GLIS類型のみでの活動が多く、学校全体の特色化としてはやや弱い。 ○グローバルリーダーの育成をGLIS類型を中心に学校全体へ広げることが課題。
			2.習熟度別少人数授業(英・数)の実施	A(4.3)		
			3.STでの言語活動等の実施	A(4.0)		
			4.補習(平常・長期休業中)の実施	A(4.0)		
		国際理解を深める教育	5.英語4技能試験の活用	A(4.1)	A	
			6.海外FW・海外語学研修の実施	A(4.5)		
			7.グローバルキャリア形成講座の実施	A(4.1)		
		理数教育の充実	8.大学模擬授業、大学フォーラムへの参加	B(3.8)	B	
			9.GLISコミュニケーションワークの実施	B(3.7)		
			10.ALTによる英語による科学実験講座	B(3.5)		
	「豊かな心」の育成	人間力の育成	11.校訓に基づいた校風の醸成	B(3.3)	B	○県高の歴史と伝統が生徒の自主活動を支えている。 ○現在の県高生にとっての学習活動、部活動等への取組は、時代とともにアップデートする必要がある。 ○体育祭では自主性を重んじた取組内容が目を見せた。 ○自転車通学の安全確保は、学校、家庭、地域にとって大きな課題。 ○熱中症対策は、未然防止段階での取組に重点をおきたい。 ○校務支援システムは導入段階での担当者の負担は大きかったが、運用は軌道に乗っている。 ○定時退勤日は実施しようとする中でかえって多忙感が増している。働き方改革を推進する上での結果の一つと捉えるべきか。 ○地元企業との連携は継続しているが、その濃さが以前より薄くなったと感じる。 ○「申し合わせ」は状況に応じて、定期的な改善が求められる。 ○一斉メールは緊急時に限定したため、活用回数が低かった。活用方法の改善、周知が必要。 ○学校紹介は生徒目線で実施することができた。次年度はもっと生徒が前面に出ることができるようになりたい。 ○同窓会、PTAの学校活動への支援は本校の大きな存在、大変ありがたい。
			12.生徒会活動の活性化	A(4.0)		
			13.生徒主体の伊泉祭(文化祭)	A(4.3)		
		14.「食と健康」の課題探究の実施	B(3.8)			
	「健やかな体」の育成	心・技・体の醸成	15.生徒主体の体育祭・球技大会	A(4.3)	B	
			16.活動方針に基づいた部活動の実施	B(3.6)		
		健康教育・安全教育	17.登下校等の安全確保	B(3.2)		
			18.WBGTによる熱中症対策	B(3.7)		
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.7)	B		
		20.外部研修等への参加	B(3.4)			
		21.校内職員研修会の実施	B(3.7)			
		22.校務支援システムの運用	A(4.3)			
	学校の組織力の強化	情報共有	23.定時退勤日、ノーマルデーの徹底	C(2.2)	B	
			24.情報管理等に係る「申し合わせ」の整備	B(3.6)		
		25.校内委員会等の活性化	B(3.1)			
	家庭と地域による学校と連携した教育の推進	いじめ・不登校への対応	26.いじめアンケートによる早期発見・対応	A(4.2)	A	
			27.地元企業等連携したSGHの運営	B(3.9)		
		28.PTAと連携した一斉メール配信	B(3.9)			
地域への情報発信	29.広報誌「緑樹」、学校通信等の発行	A(4.3)				
	30.管理職による中学校説明会の参加	A(4.3)				
	31.生徒主体のオープンハイスクール	B(3.8)				
	32.同窓会・PTAとの参画・協働	B(3.9)				
	33.学校評議員会、学校評価の改革	B(3.7)				

5 学校関係者評価(総合)

○本重点目標・本基本方針の実現に向け、教育の現場として真剣に取り組まれている。
○兵庫県教職員資質向上指標による自己点検は、ほぼイメージと合致している。低点数の項目は次のステップでの改善を期待している。
○可能性豊かな生徒が集まっています。将来の選択肢を広げるためにも、一層の学力向上を期待します。

6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
○アクティブ・ラーニングの取組や実績をもっと発信した方がよい。 ○デジタルネイティブと呼ばれる世代の高校生にはICT教育などの学び方を多角的に用意する時期かと思う。 ○グローバル・リーダーの育成は、現状と将来の過渡期であり、短期+長期の取組で実現に向け推進願います。 ○生徒自ら学ぶ意識と意欲が学力や人間性育成に大きく寄与する。自ら学ぶ授業を充実してください。
○時代の変化が激しい中、校訓が生徒一人一人の身近な存在になっているか検証する必要がある。
○自転車通学は高校選びでも重要な要素の一つなので、引き続き安全確保に取り組んで欲しい。
○働き方改革の実現に向け、学校の運営と生徒や保護者との調和を模索しつつ、改革をお願いします。 ○メールによる連絡・協議事項の持ち回り審議の活用などで会議数を減らすことも必要。
○グローバル・リーダー育成において、連携先をもう少しグローバルも視野に入れてはどうか。
○学校紹介が生徒目線になることはとても良いことです。 ○メール配信システムの効率活用実施、ブログの定期配信等、PTA保護者との情報共有も活性できていた。

4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検

5段階で評価したのち、3段階(できている・できていない・わからない)の人数割合を表示。

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標
学習指導	授業実践力・授業改善力	1.学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。
		2.学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。
		3.主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。
		4.評価規準に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。
		5.わかる授業づくりに向けて、ICT機器等を活用することができる。
学級・HR経営	集団を高める力	6.いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その予防・解決に取り組むことができる。
		7.学年・学級目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。
		8.児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドとストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。
一人一人の能力を高める力	9.保護者や関係機関と連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。	
	10.「教職員の勤務時間適正化推進プラン」をもとに、ワーク・ライフ・バランスや勤務時間の適正化を意識しながら、計画的に仕事を進めることができる。	
チーム制で組織を担う	協働性・同僚性	11.児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。
		12.校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。
	組織的対応力	13.校内の情報を適切に管理し、取り扱うことができる。
		14.学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。
資質を高める	自己管理能力・変革力	15.日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。
		16.適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。
		17.日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。

